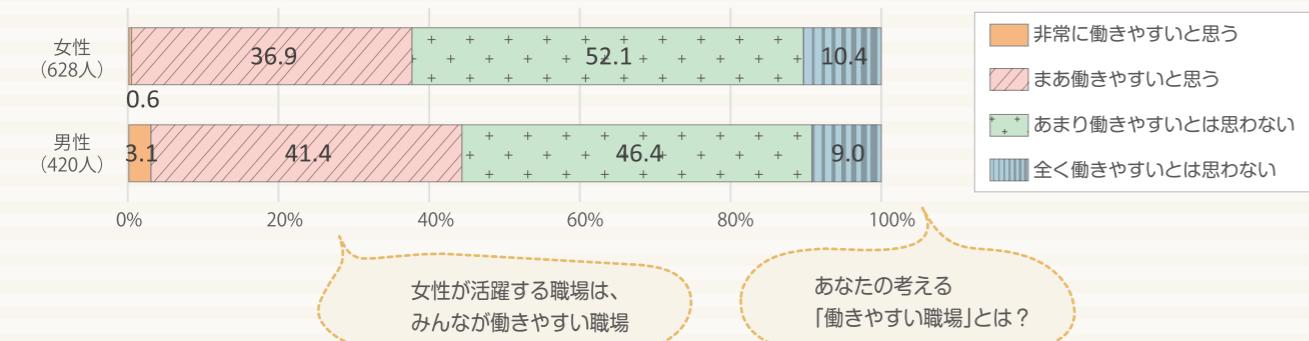


## 川崎市のいま、これから

川崎市の女性にとって、いまの社会は働きやすいのでしょうか。残念ながら、女性自身の回答は「あまり働きやすいと思わない」「まったく働きやすいと思わない」が合わせて半数を超えていました。男性から見ても、女性はまだまだ働きにくい状況のようです。

いまの社会は女性にとって働きやすいか(2014年)



女性活躍は、女性の働き方の改善だけで達成されるものではありません。性別や年齢に関係なく、誰もが働きやすい職場を社会で、組織で作り上げることで、実現することができます。川崎市でも、これからも引き続き女性活躍の取り組みを広げていきましょう。



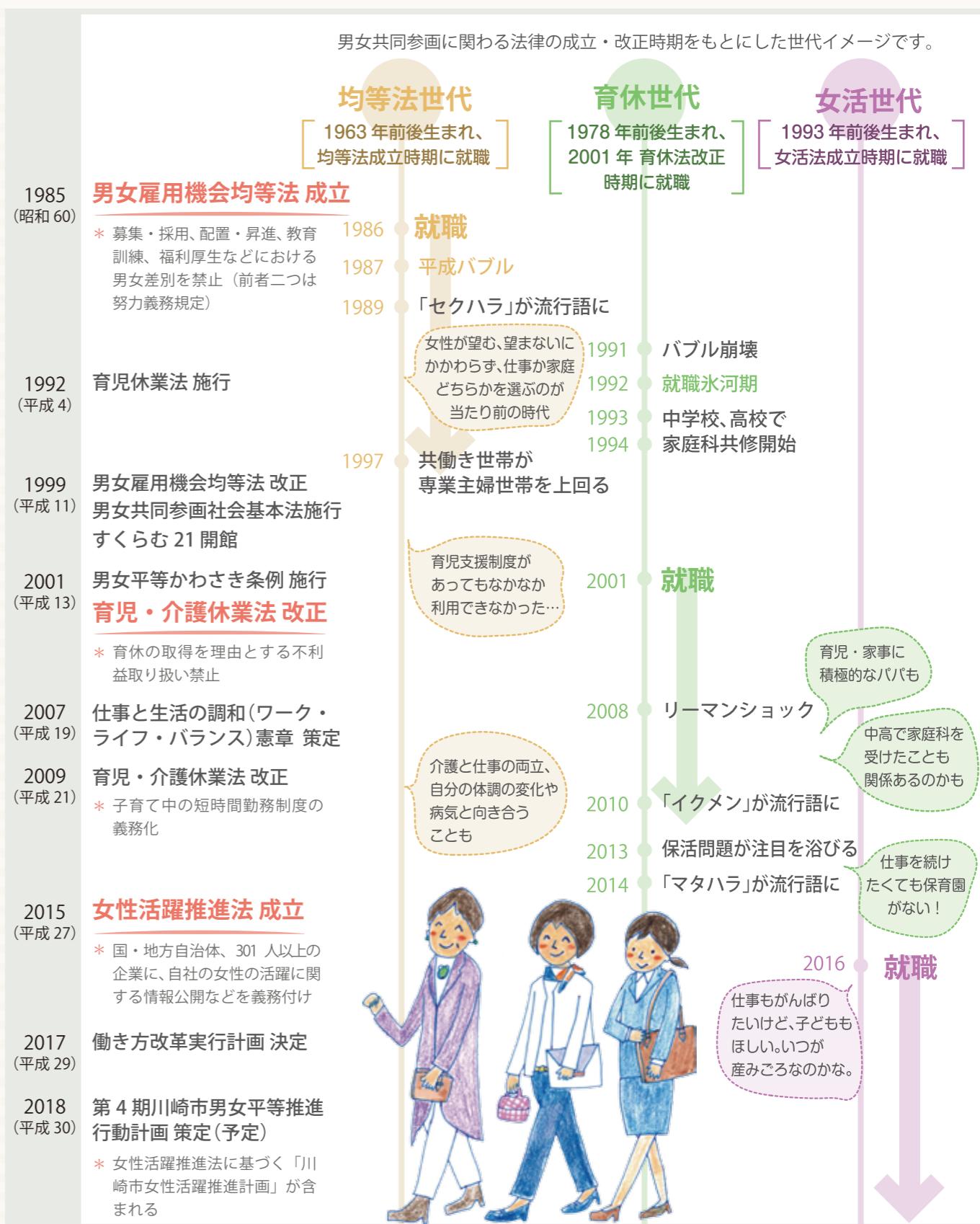
### 引用・参考

- ・かわさきの男女共同参画に関するアンケート調査報告書(川崎市男女共同参画センター、平成28年8月発行)
- ・川崎市の人口 上巻 平成2年国勢調査結果報告書(川崎市、平成5年3月発行)
- ・昭和60年国勢調査
- ・平成12年国勢調査
- ・平成27年国勢調査
- ・平成26年経済センサス - 基礎調査結果
- ・平成24年就業構造基本調査
- ・上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』2013年、文藝春秋
- ・中野円佳『「育休世代」のジレンマ—女性活躍はなぜ失敗するのか』2014年、光文社新書



# かわさきの男女共同参画 DATA BOOK

～この30年で働く環境や働き方はどれくらい変わってきたのでしょうか～

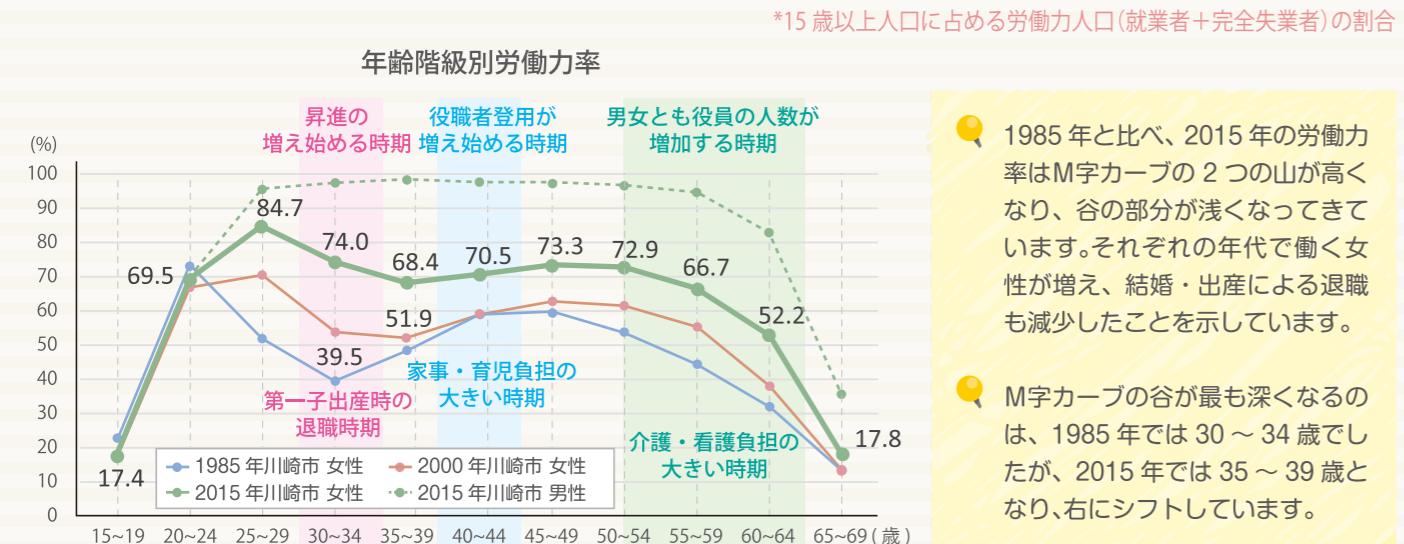




近年、いたるところで「女性活躍」というキーワードを目にするようになりました。日本全国で女性活躍推進の機運が高まっています。働く場面で活躍したいという希望を持つすべての女性が、その個性と能力を十分に発揮できる社会の実現を目指して、2015年8月には「女性活躍推進法」が成立しました。では、川崎市の女性の働き方はどうなっているのでしょうか？「かわさきの男女共同参画に関するアンケート調査」(2014年)や各種調査の結果をもとに、考えてみましょう。

## ライフステージと女性の働き方

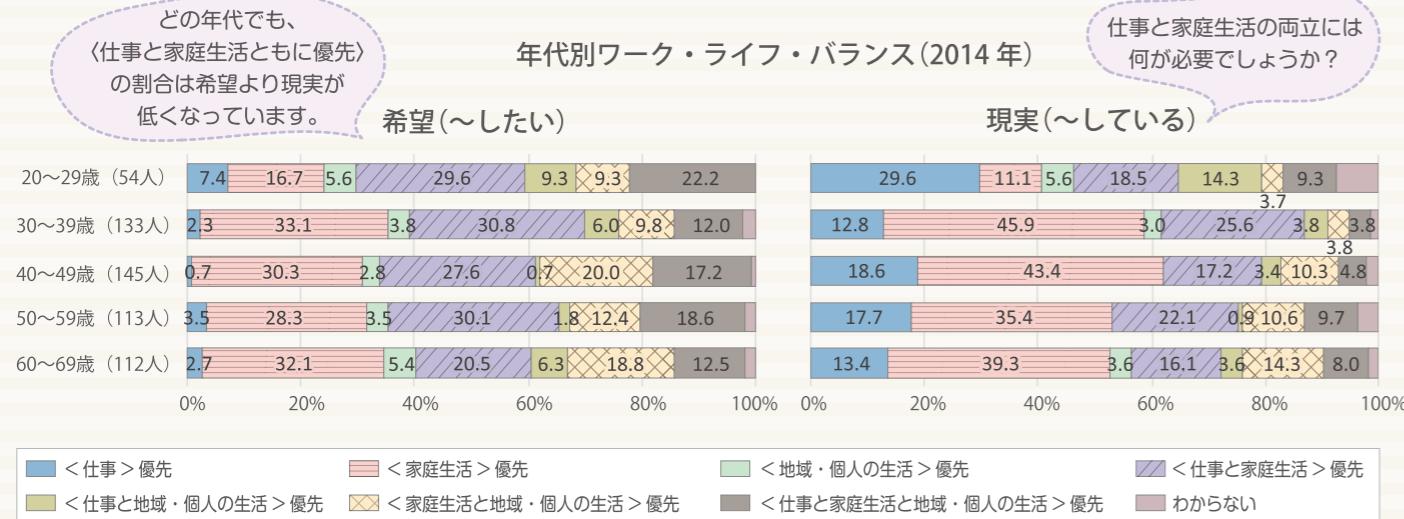
女性の労働力率<sup>\*</sup>は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、子育てが落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描くことが知られています。その傾向は川崎市でも同様です。



- 1985年と比べ、2015年の労働力率はM字カーブの2つの山が高くなり、谷の部分が浅くなっています。それぞれの年代で働く女性が増え、結婚・出産による退職も減少したことを示しています。
- M字カーブの谷が最も深くなるのは、1985年では30~34歳でしたが、2015年では35~39歳となり、右にシフトしています。

## ワーク・ライフ・バランス

川崎市の女性たちは、〈仕事〉と〈家庭生活〉、そして〈地域・個人の生活〉のバランスについて、どのような希望を持っているのでしょうか？また、現実はどうなっているのでしょうか？年代別に、希望と現実のギャップに着目してみましょう。

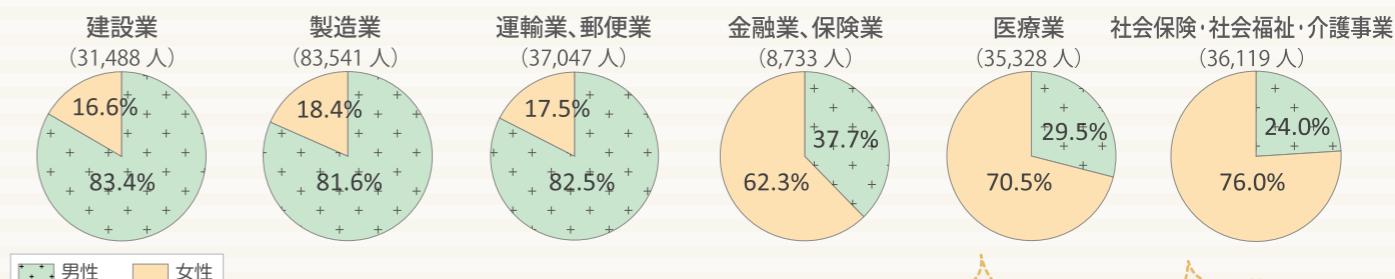


- ワーク・ライフ・バランスの希望と現実を年代別にみると、出産・育児の負担が増える30代~50代では、〈仕事と家庭生活〉優先を希望する人が3割前後いるのに対し、現実に優先できている人は1割台後半~2割台半ばと、5~10ポイントの開きがあります。
- 他方で、〈仕事〉または〈家庭生活〉のいずれかを優先する人が現実では約5~6割となっており、両立が難しい現実が見て取れます。

## 業種による男女差

社会を見渡すと、女性の多い職種、男性の多い職種があります。近年、従来、一方の性が多かった職への参入が増え、性別にかかわらない活躍の幅が広がりつつあります。ポジティブ・アクションという形で、積極的に女性を登用するという動きも出てきています。川崎市における、6つの業種の男女比率を確認してみましょう。

### 産業別男女比率(2014年)



- 「建設業」「製造業」「運輸業・郵便業」といった技術系の業種で男性比率が8割を超えていています。
- 一方、「金融業・保険業」「医療業」「社会保険・社会福祉・介護事業」は女性が約7割を占めています。
- 同じ医療業でも、女性比率は医師19.5%、看護師93.7%と職業で大きな差があります(平成22年国勢調査)。なぜなのでしょうか？
- 上記の6つの職種以外についても、男女比率を調べてみましょう。

## 女性管理職比率

女性の労働力率が高まり、勤続年数は長期化していますが、管理職に占める女性割合は低いままです。政府では指導的地位に占める女性の割合を「2020年までに30%」とする目標を掲げ、様々なポジティブ・アクションが実施されています。川崎市における、女性管理職比率<sup>\*</sup>はどのように変化してきたのでしょうか。

### 管理職に占める女性の割合



\* 管理的職業従事者に占める女性の割合

- 川崎市に常住する女性では、1985年には8.5%、2015年には14.8%となっています。年々増加傾向にありますが、15%前後と低い水準に留まっています。
- 次世代の女性のロールモデルに！
- 役職者は昔も今も男性が多い状況です

## 多様な働き方

女性は出産・育児、介護などライフステージごとに働き方の変更を余儀なくされることも少なくありません。時間的制約の多い時期にも就労継続できるよう、多様な働き方を可能にしていくことも重要です。小さく事業を始めて、ライフステージに合わせて大きくしていくなど、働き方を変えられるという意味でも「起業」は女性の働き方の有効な選択肢のひとつと言えます。

### 女性求職者のうち

#### 起業希望者割合(2014年)

